

# 統合庁舎再編の市民への理解は

説明と議論を進め、協議を重ね方向性を出す



自民クラブ

向川 静孝 議員

**Q** 統合庁舎再編は、十分な時間をかけ市民に説明と議論を行い、理解を得た上で方向性を示すべきでは

**A** 一つひとつ段階を踏んで議論を進めていくという考え方に基づいて、丁寧な説明と議論を進め、協議を重ねた上で方向性を出していきたい。

**Q** 統合庁舎建設は、災害の危険が予測される場所は避けるべき

**A** 統合庁舎は防災の拠点としての位置付けが何よりも優先されることなのか、もつと他を優先していくべきなのかなど、優先順位を含め、総合的な判断が大切である。

**Q** 統合庁舎再編は、新たな合併を視野に入れた庁舎にする考えは

**A** 新たな合併とは別と考えている。

**Q** 公共施設再編の進捗状況及び、縮減未達成に対する今後の縮減計画と、収支不足額の基金積み立ての実行性は

**A** 地元への説明を進めており、予算化できたものから順次再編を進めていく。縮減未達成の約6万㎡について、再検討や、再編時期の前倒しを検討し、50%縮減を早期に計画実行できるように進める。先送りしたことに伴う不足財源として毎年度5億2千万円を積み立てることとしており、今後、行財政改革を進め財源の捻出に努めていく。



一般質問

# 女性が輝いて生きられる社会の構築は

次年度で“イクボス宣言”を目指す



自民クラブ

長井 久美子 議員

**Q** 男女共同参画推進員の活動状況は

**A** 自治振興会、各種団体、一般公募の74人が地域・広域で活動している。地域での料理教室、防災マニュアルの作成や寸劇を通じた活動の周知に努めている。

**Q** 自治会活動への女性の参画は

**A** 27年の調査によれば、市内の町内会・集落自治会等354団体のうち会長、副会長、会計などに女性を起用している団体は3%にとどまっている。



街頭での啓発活動

今後は地域の問題解決のためには性別に関係なくすべての世代の参画・協働ひいては、総働で取り組まねばならない時期にきている。

**Q** 市職員の働き方に無理は無いのか

**A** 職員に過度な負担をかけるような各所属の業務量の把握に努め適正な人員配置と業務の効率化に努め、職員のワークライフバランスに配慮していく。

**Q** 市へ移住者を増やすイメージアップの方策は

**A** 人口減少に歯止めをかけるため企業や社会全体が、仕事と生活の両立可能な地域であることの証として「イクボス宣言」をし、若者に魅力ある地域であることを発信していく。